

従って西郷の場合でも、上士の家に生まれ、
あるいは出自はよくなくても、
なにかの運で若すぎるうちに
エリートコースに乗っていれば
自分の思い描いた政策などを
浅い段階で実施できてしまい、
いわゆる参謀にはなれても、
維新回天などという
どでかい仕事のできる人間まで
ゆきつけなかつたのでないか。
現に、あの有弁多才で
個体能力抜群だった一橋慶喜でさえ、
殿様特有の人間音痴が災いして
土壇場の難局を乗り切れなかつた。

さらに、自分がこだわる“年齢”の話をすれば、

貧乏な下役人の子に生まれ、
若年の頃から志を持ち、
下々の生活に触れながら
下積みを経験し達した28歳、
若すぎれば才が勝ち尖ってしまうくらいがあるし、
これ以上年を経てしまうと、
とうが立ち、腐ってしまいそうなぎりぎりの年である。

**機が熟し切った時、
最高の師匠斎彬と出会えた。
まさに、好奇心が恋に変わり、
長い間恋こがれて悶々としていた時、
相手が靡いてくれたようなものであろう。**

西郷が一気に開花した理由はそれであり、
斎彬の懐刀として活動した4年間は、
第一段階の大きな成長期、

思想的な拡がりと共に、
ハイレベルな交渉力、
実行力という、
実務的な政治技術を西郷に付加した貴重な期間であった。